様式第３号（第１３条関係）

会議録

<table>
<tr><td>会議の名称</td><td colspan="2">令和８年度第２回朝霞第三中学校学校運営協議会</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="2">令和８年７月１６日（木）
午後３時００分から午後４時３０分まで</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="2">朝霞市朝霞第三中学校　図書室</td></tr>
<tr><td>出席者の職・氏名</td><td colspan="2">・会長　白鳥　成章　・副会長　渡辺　聡
・委員　關野　武男　・委員　正野　寛樹　・委員　金子　雅美
・委員　中村　菜々子・委員　後藤　顕一
・校長　野口　邦彦　・教頭　犬木　勝
司会：猪狩　一史（教頭）　記録：金田　昌大（主幹教諭）</td></tr>
<tr><td>欠席者の職・氏名</td><td colspan="2">０人</td></tr>
<tr><td>議題</td><td colspan="2">（１）１学期の教育活動と２学期以降の学校運営について
（２）保護者向け講演会の開催について
（３）その他</td></tr>
<tr><td>会議資料</td><td colspan="2">（１） 第２回学校運営協議会次第
（２） 令和８年度朝霞市立朝霞第三中学校年間行事予定</td></tr>
<tr><td rowspan="5">会議録の作成方針</td><td colspan="2">□電磁的記録から文書に書き起こした全文記録</td></tr>
<tr><td colspan="2">■電磁的記録から文書に書き起こした要点記録</td></tr>
<tr><td colspan="2">□要点記録</td></tr>
<tr><td colspan="2">□電磁的記録での保管（保存年限　　年）</td></tr>
<tr><td>電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間</td><td>■会議録の確認後消去
□会議録の確認後　か月</td></tr>
<tr><td colspan="2">会議録の確認方法　司会・記録　による確認</td></tr>
<tr><td>傍聴者の数</td><td colspan="2">０人</td></tr>
<tr><td>その他の必要事項</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
1　会長あいさつ ・時代についていくために多角的な視点を持って自分自身（学校自身）がアップデートしていくことが求められている。この視点を持って、学校運営協議会がどのように学校運営にかかわっていくのか考えていきたい。 2　学校長あいさつ ・学校総合体育大会朝霞地区大会の運営実施状況の報告。台風等の影響もあったが、無事に大会期間を終えることができた。大会等における暑さ対策について報告。 ・１学期を無事に終えられそうである。しかし、今学期を通して感じたことは、保護者と学校が共に「ＳＮＳ」について考える機会を持つ必要性。本日の会議において、今後予定している展望をお話ししたい。 3　協議 （1）１学期の教育活動と２学期以降の学校運営について ●教頭より説明 ・最近の登下校時の生徒の様子について。教職員一丸となって指導に取り組んでいる。 ・体育大会を最高の形で終えることができた。生徒たちの成長はもちろん、教員自身の成長もたくさん見られた。若手教員と経験を積んだ教員がペアで生徒や保護者に対応する風土ができ始めている。 ・「生徒手帳のカード化」「ポロシャツの導入」など、生徒主体の活動が実施できている。 ・大会等における結果報告。 ・教職員における研修。今年度の研究発表に向けて積極的・主体的に取り組んでいる姿を報告。研究テーマである「協働的な学び」を意識している。先日、２名の教員が研究授業を実施。浦和大学の安原先生にもお越しいただき、ご指導いただいた。 ・地域との活動を報告。『７７５ＦＭ』の方々に来ていただき、放送委員会にご指導、ご助言をいただいた。 ・生徒対応のさらなるレベルアップに向けて、教職員による研修を行った。特に若い教員の困り感を軽減するための話し合いを実施した。 ・自動採点システムのトライアル期間の報告。採点時間の大幅な時間削減につながった。 ・来年度もクラス増加の傾向にある。今夏から教室転用の工事を開始する。 ・現在、修学旅行などの学校行事、研究開発発表に向けて取り組んでいる。 委員Ｂ：１学期中間テストを廃止して、何か変化はあったのか。 教　頭：教員の負担軽減につながっているのと同時に、授業改善にもつながっている。 委員Ａ：昨年度と違う期間に設けて、何か変化はあったのか。 校　長：テストを行っておしまいでなく、テスト後にゆとりを持つことでテスト後の変化を観察したり、成績処理にも余裕を持ったりすることができる。 委員Ｆ：自動採点システムを導入したことによる不具合は何かあるか。 教　頭：今現在報告は受けていないが、テスト返却後の不正などを防ぐことにつな

がっている。
委員Ｄ：テストの回数を減らしたことによる定着具合はいかがか。
教　頭：教科の特性に合わせた単元テストや小テスト等で対応している。
委員Ｇ：単元テストを実施する際は、学年で統一して時間をそろえ実施している学校もある。そうすることで、不正をなくしたり、平等性を保てたりする。
委員Ａ：教職員の研修と聞けば、「教科」に対するイメージが強い。今回の話を聞いて、若い先生方の困り感をピックアップし、教職員で共有できる機会を意図的に設けられていることが良い。子どもの数が増えているのが現状。落ち着きがなくなっていくことが予想される。三中のように先生方が安定的にいらっしゃる環境が整っているので安心して子どもたちが学校に通える要因になっていると考える。
校　長：意図的に経験年数でバランスよくグループを組み、教職員研修を行うことで意見が活発になり、主体的な取組につながっている。先生方の環境が整うと、どのような問題に直面しても乗り越えられると考える。

（２）保護者向け講演会の開催について
●校長より説明
・「中学生のネットリテラシーをどう育てるのか～スマホ、ＳＮＳ時代の保護者・教師のかかわり方～」を題材に行っていきたい。中学生のインターネット利用率が『９９．２％』である。ＳＮＳに起因するトラブルも増加している。中学生は、判断力や危険回避力は発達途中である。よって、ネットリテラシーが求められている。
・現代の子どものＳＮＳの世界の現状は。→ＤＶＤ視聴。
・「情報を見極める力」「個人情報を守る力」「発信に責任を持つ力」「人との距離を取る力」「相談する力」５つの力が必要である。
・監視よりも対話。子どもが自分で判断する力を付けるために親子で共に育っていくことが大切である。

委員Ｂ：聞いてほしい保護者ほど、このような講演会に来ることはない。このような課題に対して、どのように対処していくのか。
校　長：実施日時については、慎重に検討していく必要がある。今現在は、２学期末の保護者会の日に実施する予定である。
委員Ｆ：事前にどこまで広められるか。興味を持ってもらえるかがポイントになる。
委員Ｃ：保護者向けの話だったが、生徒向けにも実施するのか。実際に使用するのは子どもなのだから。
校　長：子ども向けにも行う予定である。
委員Ｃ：確かに今の若い人たちは「文脈」で理解せず、「単語」で判断する。若い人たちにどのように説明し、伝えていくのか。
委員Ｄ：ＳＮＳトラブルの先を見せることで本当の恐ろしさを感じることができる。著作権に関しても同様である。中学生に、このような点をどのように伝えていくのか、考えていく余地があるのではないか。厳しくやっていくことが将来の大きなミスを防ぐことができる。
委員Ｂ：開催方法や内容について再検討していってほしい。
委員Ｆ：道徳の授業で「いじめ」「ＳＮＳ」を取り合扱うことはあるのか。
委員Ｇ：学級懇談会等にリンクするような仕組みにするのはいかがか。
校　長：再検討していきたい。

（３）その他

●校長より

・研究発表会が１１月１３日（金）に行われる。ぜひ、学校運営協議会の委員の皆様にも来ていただきたい。

４　連絡

① 第３回学校運営協議会の日程について

１０月２４日（土）学校公開日を予定している。

② 研究発表の日程

１１月１３日（金）開催予定なので、学校運営協議会メンバーにも来ていただきたい。

５　閉会のことば　副会長より